

## 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むために

調査結果から、幼稚園・こども園や家庭、地域において、子どもの豊かな感性を育むために、以下の提言をする。



### 提言 1 遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう。

- ▶ 自ら環境に関わり、十分に身近な自然と関わり遊ぶことを楽しめるように、援助や環境の構成を工夫する。
- ▶ 園生活で身近な自然と関わる機会を計画的、積極的に作り、幼児が遊びの中で豊かな自然体験を楽しめるようにする。

- 自分の興味や関心に応じて、身近な自然と関わる遊びを友達と繰り返し楽しめる環境にしよう!
- 自然環境に触れて豊かな経験ができるように、身近な自然に関わる遊びや活動を工夫しよう!
- 身近な自然と関わる遊びや活動、園の自然環境を生かした環境づくり、保護者参加の活動を指導計画に位置付けよう!
- 身近な自然と関わる遊びの指導や環境づくりについて研修し、実践に生かそう!

### 提言 2 幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で自然との触れ合いを楽しめるようにしよう。

- ▶ 身近な自然に触れた様々な楽しい遊びを保護者に伝え、親子で触れ合いながら身近な自然と関わり遊ぶ機会を増やす。
- ▶ 身近な自然に触れて遊ぶ中で心の安定や思考力・好奇心の芽生えを実感し、日常的に様々な身近な自然との関わりを楽しめるようにする。

- 親子で一緒に遊んだり驚きをもって見つめたりなど、様々な身近な自然と関わり、親子共に心を動かす機会をつくろう!
- 園の行き帰り、近隣の公園などで遊ぶ際に親子で自然環境を見たり触れて遊んだりしながら、感じたこと考えたことを話題にして楽しめるようにしよう!

### 提言 3 地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう。

- ▶ 通園路や地域の公園等の環境を活用して、様々な身近な自然との関わりを楽しめるようにする。
- ▶ 地域の行事や活動、地域の人材を活用し、地域の環境や自然に触れる遊びの具体例の情報を発信する。

- 地域の自然環境の特性を生かした行事や活動を通して、身近な自然に目を向け、触れることを楽しめるように発信しよう!
- 地域のいろいろな人と触れ合い、身近な自然に触れて遊ぶことを楽しめるようにしよう!



# 身近な自然に触れて遊んで! 親子で一緒に楽しもう!



## 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むために

会長 新山 裕之

幼児期に自然と関わるのが重要であることは言うまでもありませんが、今回の自然との関わりに関する実態と意識についての調査結果からは、保護者が自然との関わりに関心が低くても、園での子ども自身の自然体験や保護者向けの積極的な発信によって、子どもの自然体験を豊かにすることができていることが明らかになりました。

急激な技術革新や生活環境の変化に伴い、スマートフォンやゲーム機器を使った仮想空間での間接体験が増えてきています。自分の手で園庭の草花を摘んだり、砂場で遊んだりすることに抵抗がある子どもも見受けられます。自然との関わりを通して、豊かな感性と表現力の源ともなる心が揺り動かされ、人の思い通りにならない体験をすること、多様性を学ぶことが、今まで以上に重要となってきています。

このリーフレットでは、調査研究の主な結果を紹介するとともに、全国7ブロックで取り組んだ親子体験型キャンペーン・研修会の内容や成果等を紹介しています。今回初めて行った、地域・保護者向けに幼児教育について理解していただく取り組みについてもまとめています。各園において、自然体験を豊かにしていく際の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、本年度の事業推進のためにご協力いただいた多くの皆様に深く感謝いたします。

#### 編集・執筆 特別事業委員

|           |       |                  |
|-----------|-------|------------------|
| 委員長       | 加納千恵子 | 浦安市立入船南認定こども園    |
| 副委員長      | 足立 祐子 | 台東区立竹町幼稚園        |
| 委員        | 山口 晃司 | 中央区立豊海幼稚園        |
| 委員        | 島崎 智恵 | 認定こども園世田谷区立多聞幼稚園 |
| 委員        | 青山 伸子 | 港区立港南幼稚園         |
| 委員        | 渡部佳代子 | 江東区立第五砂町幼稚園      |
| 委員        | 浅沼美穂子 | 浦安市立青葉幼稚園        |
| 委員        | 川嶋 佳恵 | 杉並区立堀ノ内子供園       |
| 国公幼会長     | 新山 裕之 | 港区立青南幼稚園         |
| 同 副 会 長   | 箕輪 恵美 | 中央区立有馬幼稚園        |
| 同 事 務 局 長 | 佐藤 忍  | 国公幼事務局           |

#### 令和元年度 全国キャンペーン・研修会ブロック担当

|         |       |                      |
|---------|-------|----------------------|
| 東北北海道   | 小笠原朋子 | 弘前大学教育学部附属幼稚園        |
| 関東甲信越   | 三好 廣美 | 安曇野市立穂高幼稚園           |
| 東 海 北 陸 | 杉澤久美子 | 三重大学教育学部附属幼稚園        |
| 近 畿     | 吉川 豊  | 和歌山市立紀伊幼稚園           |
| 中 国     | 吉川 瑞穂 | 湯梨浜町立まつぎきこども園        |
| 四 国     | 大原 和江 | 四国中央市立三島南幼稚園         |
| 九 州     | 桑俣 直美 | 江北町幼児教育センター<br>江北幼稚園 |

発行日 令和2年2月21日  
編集発行 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 新山 裕之  
住 所 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28 ナーベルお茶の水208

電 話 03 (5684) 2240  
F A X 03 (5684) 2174  
E - m a i l entyokai@kokkoyo.com  
ホームページ https://kokkoyo.com



全国国公立幼稚園・こども園長会  
特別事業委員会



事業名：身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究

# — 身近な自然に触れて遊んで！親子で一緒に楽しもう！ —

**事業のねらい** 親子の関わりを楽しみながら自然に触れて遊ぶことを推進し、豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎を培うことをねらいとして、2年間の調査研究を行う。

## 1年次

- 親子や教諭の自然との触れ合い、自然体験に関する実態調査を実施。
- 親子で自然に触れて楽しみながら保護者・地域と共に学ぶ、そして幼児教育の重要性についての講演会等の全国キャンペーン・研修会の実施。
- 自然との関わりを通して親子のつながりを深めるための環境整備や実践化を図るためのリーフレットの作成。

## 2年次

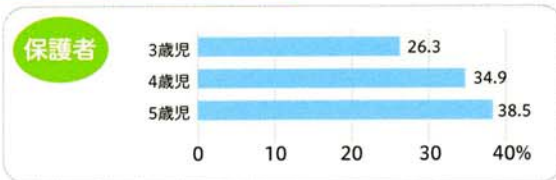
- 親子で自然に関わることの重要性を発信するための教材開発。
- 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むよう、行動化を促す全国キャンペーン・研修会の実施。
- 自園の教育活動や親子での活動に活用できるようにする報告書の作成。

## 身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査

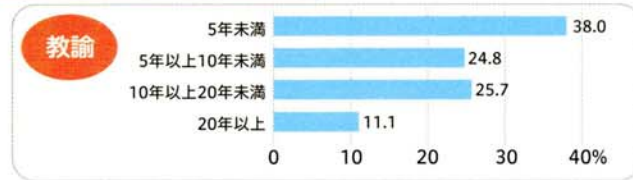
調査対象園：全国の幼稚園・こども園から選定  
回答者数：保護者2,037名 教諭666名  
調査実施期間：令和元年9月

調査結果から身近な自然との関わりに関する実態や、教諭・保護者の意識の傾向について以下のように読み取った。

### 調査対象の子どもの学年

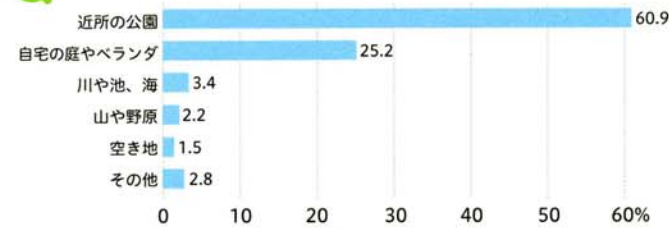


### 調査対象の教諭の経験年数



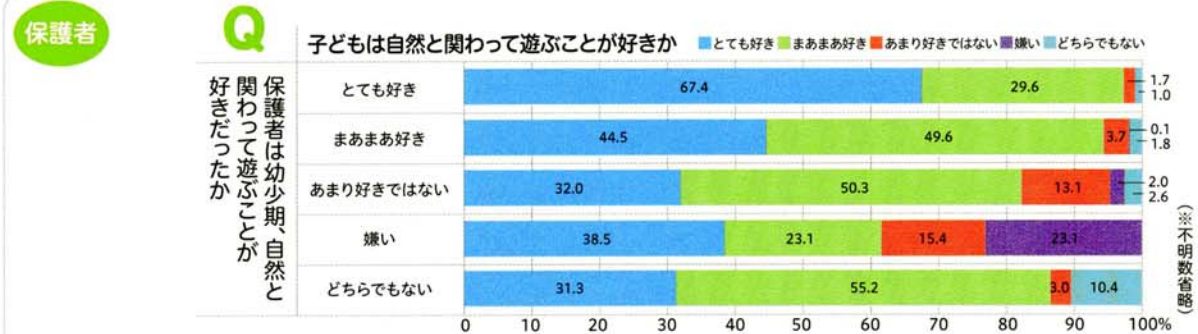
### 子どもの実態 子どもが日常、園以外で自然に関わって遊ぶ場所

#### 保護者 Q 子どもが日常、園以外で自然に関わって遊ぶ場所



子どもが日常、自然に関わって遊ぶ場所は近所の公園が一番多い。次いで、自宅の庭やベランダとなっている。身近に自然が少なくなっている中で、公園は、子どもが自然と触れ合える貴重な遊び場になっている。

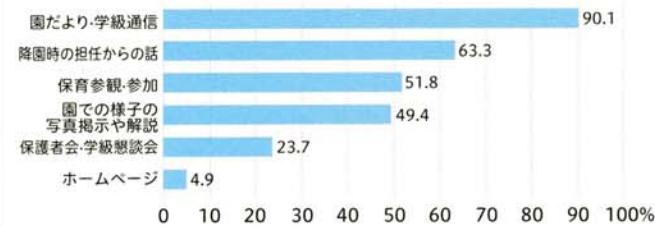
### 保護者と子どもの実態 自然との関わりに関する保護者の幼少期の実態と子どもの実態（クロス集計）



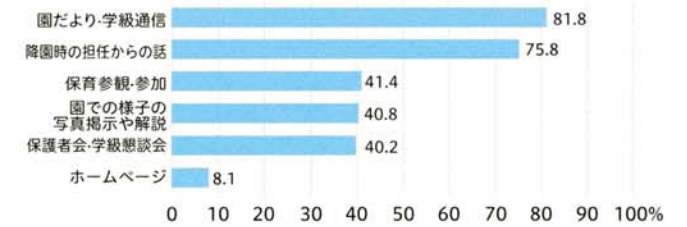
自然に関わることが「とても好き」「まあまあ好き」と回答した保護者の子どもは、自然に関わることが「とても好き」「まあまあ好き」と回答する割合が高かった。「あまり好きではない」「嫌い」と回答した保護者の子どもは、自然に関わることが「あまり好きではない」「嫌い」という回答の割合が高い。一方で、自然に関わることが「嫌い」「あまり好きではない」と回答した保護者の子どもでも、自然に関わることが「とても好き」「まあまあ好き」という回答を合わせると6割以上ある。このことから、園生活の中で子どもが身近な自然に触れて遊ぶことを充実させたり、園からの積極的な発信をしたりすることで、子どもの自然体験を豊かにすることができるのではないかと考える。

## 保護者と教諭の意識 保護者が捉えている園からの自然との関わりに関する発信と、教諭の取り組み

### 保護者 Q 園からの自然との関わりに関する発信 (3つ選択)



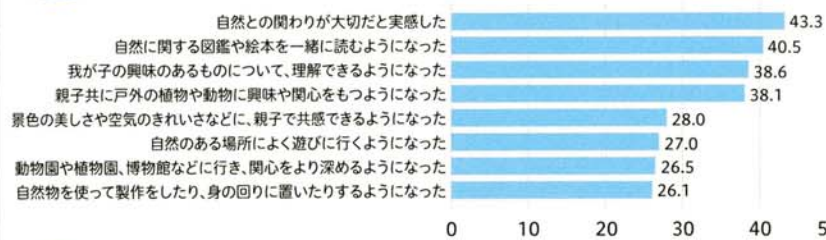
### 教諭 Q 自然との関わりを伝えるためにやっていること (3つ選択)



教諭が「自然との関わりを伝えるためにやっていること」と、保護者が「園からの自然との関わりに関する発信」は同じ項目順で一致している。しかし、「保護者会・学級懇談会」については、教諭と保護者の意識に差異が見られた。保護者会で伝えられる内容は、限られた時間内で多岐にわたるため、『自然との関わりを伝える』を伝えるには、園だよりや学級通信などの書面で伝える方法や、日々の様子をその都度丁寧に知らせることが有効であることが分かる。

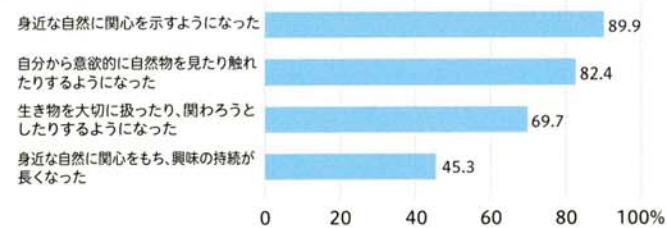
## 保護者と教諭の意識 園の取り組みや発信による自然との関わりに関する保護者と子どもの変容

### 保護者 Q 園からの発信がきっかけで、親子で自然と関わったり意識が変わったこと (3つ選択)



園からの発信がきっかけで、自然と関わる大切さを実感したり、実際に自然に関する図鑑や絵本と一緒に読むようになったりするなど、行動に結び付いていることが分かる。幼少期に自然体験の少なかった保護者や、あまり関心のなかった保護者にとっても、園からの働き掛けが「意識化」「行動化」を促すことにつながっている。

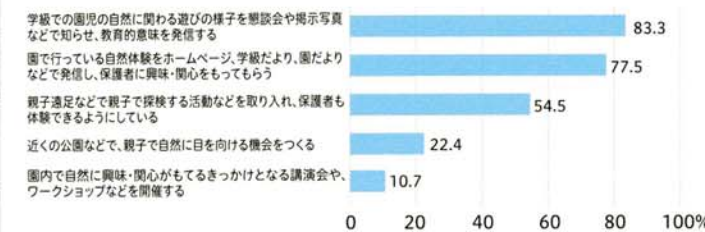
### 教諭 Q 自然に関わることで子どもの育ちや変容につながったと感じること (3つ選択)



教諭は、園から自然との関わりに関する発信をしたことで、「身近な自然に関心を示すようになった」「自分から意欲的に自然物を見たり触れたりするようになった」と捉えている。身近な自然と関わることを意識した園の環境づくりや、自然を取り入れた遊びを保育の中で行うことが、子どもの育ちや自然への興味・関心につながる事が分かる。

## 教諭の意識 自然と関わる活動を推奨するための取り組み

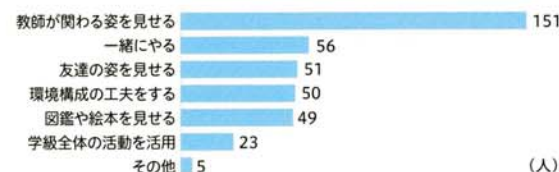
### 教諭 Q 自然と関わる活動を推奨するために園で行っていること (3つ選択)



自然と関わる活動の推奨のために、懇談会や掲示写真などで教育的意義を発信することや、園で行っている自然体験をホームページ、学級だより、園だより等で発信し、保護者に興味・関心をもってもらえるようにしていることが分かる。日々の保育を通して、自然に関わって遊ぶ大切さの意義や重要性を目で見て分かる発信方法を工夫したり、園外の自然に目を向けるきっかけをつくったりするなど、積極的に保護者をリードしていくことが重要である。

## 教諭の意識 身近な自然に興味を示さない子どもへの指導の工夫

### 教諭 Q 身近な自然に興味を示さない幼児や直接関わることを嫌がる幼児に対する指導の工夫 (記述)



興味を示さない幼児に対する指導の工夫は、大きく左記の7項目に分類された。それぞれの項目の回答で「子どもに無理強いない」と多く記述されており、幼児の主体性を重視しながら幼児が身近な自然に興味を示したり、自然と直接関わることを楽しんだりするような指導の工夫をしていることが分かる。



# 親子の関わりを楽しみながら、自然に触れて遊ぶ楽しさと

青森県国公立幼稚園・こども園会

## ① 東北北海道ブロック

実施日 令和元年10月5日(土) 会場 弘前市 弘前城植物園

参加者 [計101名]

- 園児36名 ● 保護者36名 ● 園長3名
- 教諭10名 ● 未就園児2名 ● 小中学生14名

### 親子でふれよう！秋の香り — ネイチャークラフト体験と自然観察 —

| 受付   | 開会式   | 幼児教育について(説明) | ネイチャークラフト体験・自然観察 | 閉会式         |
|------|-------|--------------|------------------|-------------|
| 9:30 | 10:00 | 10:10        | 10:30            | 11:50 12:00 |

講師 弘前市 弘前城植物園職員

#### ネイチャークラフト体験



● いろいろな色や形の葉っぱを使ってクジャクの羽根を作った。親子で一緒に作ることを楽しんだ。

#### 自然観察 — 秋を見付けよう —



● 少し早い秋の色付いた葉の香りを親子で一緒に深呼吸をして、嗅いだ。



● 落ちているどんぐりを拾った。地面の色と同じだからよく見て探した。

参加者の声

- 幼児教育についての説明の中で「遊びが大事」という話があり、とても分かりやすく納得できる内容であった。改めて幼児教育の大切さを感じた。
- 親子の触れ合いや自然との触れ合いが大切だと思いながら、なかなか普段の生活に組み込めていないと感じていたので、今回の活動はとても有意義であった。
- 自然の中を歩き、直接木の実や葉っぱを触ったり匂いを嗅いだりすることで自然の恵みをたっぷりと感じることができた。また、聞く・見る・触る・嗅ぐという体験を通して、豊かな感性や柔軟な発想力が育まれたのではないかと考えている。

三重県国公立幼稚園・こども園長会

## ③ 東海北陸ブロック

実施日 令和元年11月23日(土) 会場 津市 三重大学教育学部附属幼稚園

参加者 [計133名]

- 園児43名 ● 保護者43名 ● 園長23名 ● 教諭17名
- 保育関係者1名 ● 教育委員会・行政1名 ● 大学生5名

### 身近な自然に触れて遊ぼう！ 親子で一緒に楽しもう！

| 受付   | 開会式  | 幼児教育について(説明) | ワタやオナモミを使った親子活動 | 閉会式         |
|------|------|--------------|-----------------|-------------|
| 9:15 | 9:30 | 9:40         | 10:00           | 11:15 11:30 |

講師 三重大学教育学部教授 後藤 洋子

#### 自然物に触れて…



● 生長の様子をずっと見守ってきたからこそ愛着をもち「触れてみたい」「遊んでみたい!」と思えるものとなった。



● 年長児が種をまき、育てたワタ、畑の隅に偶然芽を出したオナモミ。



● オナモミになっておうちの人の人にくっつく遊びをした。体を預けられる安心感と信頼関係がなければ成立しない親子の大切な触れ合い遊びを楽しんだ。



● 育てたワタを使って親子で「わたぼこりレー」をした。身近なものから楽しい遊びを生み出し、一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わった。

参加者の声

- 子どもとともに楽しい時間を過ごすことができた。身近にあるものを使ってこんなに楽しい遊びができるんだと改めて思った。また家庭でもやってみよう。
- 自然物を使って遊ぶことはそれだけで子どもの興味や関心が既成の玩具とは違うように思うし、そこから感じ取ることもしっかりとたくさんあるのだろうと思う。
- 心から楽しそうな親子の笑顔を見ていると、親子の関わりや家庭の教育力を大事にしながら、園生活がより充実するように努めていくことの大切さを改めて感じた。

長野県国公立幼稚園・こども園長会

## ② 関東甲信越ブロック

実施日 令和元年10月19日(土)

会場 長野県安曇野市 国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区

参加者 [計202名]

- 園児78名 ● 保護者78名 ● 園長8名
- 教諭29名 ● 未就園児4名 ● 行政4名 ● その他1名

### 自然の中で 親子で楽しむ里山体験！

| 受付   | 開会式  | 幼児教育について(説明) | クラフト・野外活動 | 移動    | クラフト・野外活動 | 移動    | 閉会式         |
|------|------|--------------|-----------|-------|-----------|-------|-------------|
| 9:00 | 9:40 | 10:05        | 10:20     | 10:50 | 11:00     | 11:30 | 11:50 12:20 |

講師 アルプスあづみの公園 市民協働特農作物係 係長 須之部 大・椎名 春菜・その他公園スタッフ  
NPO法人わおん 末次 克洋・玉田 尚子

#### 自然物を使って親子で触れ合い



● 葉っぱやどんぐりを使って、お絵描きやコマを作った。

#### ミミズ探し



● 「ミミズはどこにいるのかな」どうぶつ当てクイズを楽しんだ。

#### 本物の火をつける体験



● マッチを使って火をおこした。キャンプに行きたいと思う体験になった。



取り組みの様子が松本市民タイムスに掲載された。

参加者の声

- 生まれたときから携帯、スマートフォン、テレビが周りである環境なので、自然のすばらしさを小さなうちから体験できることはよいことだと思う。
- 火を使う体験は、なかなかやらせてあげられないので貴重な経験ができた。普段できない体験ができてよかった。
- 土、草むらを掘るだけでも楽しめる子どもってすごいなあと感じた。また、自然からいろいろなことを想像し、考えることもできるので戸外活動はいいなと思った。

和歌山県公立幼稚園・こども園長会

## ④ 近畿ブロック

実施日 令和元年11月2日(土) 会場 和歌山市 和歌山城公園

参加者 [計812名]

- 園児242名 ● 保護者285名 ● 園長、教諭164名
- 未就園児114名(小学生含) ● 教育委員会・行政5名 ● その他2名

### 身近な自然に触れて遊んで！親子で一緒に楽しもう！ — 自然はともだち！ 親子で秋を楽しもう！ —

| 受付   | 開会式  | 幼児教育について(説明) | レクウォーク | 閉会式   |
|------|------|--------------|--------|-------|
| 9:00 | 9:30 | 10:00        | 11:15  | 11:30 |

講師 和歌山市教育委員会客員指導主事 松下 太

#### 博士に教えてもらおう



● 親子で採取してきた草花などの名前を覚えてもらった。

#### まつぼっくりタワー



● 積んでいく順序や、形や大きさ、置いていく向きを考えて積み重ねが見られた。

#### 松葉ずもう



● 松葉を親子で引っ張って遊んだ。力加減を工夫しながら楽しんだ。

#### 落ち葉のカルタ



● 自分で箱から引いた葉っぱと同じ葉っぱを探して遊んだ。

#### 秋みつけ



● 「あそこに赤くなりかけている葉っぱあるよ」などと、探索しながら「秋みつけ」を楽しんだ。

参加者の声

- 現在はネット社会であるが、今回、親子で自然の中を歩くことで、ネット情報だけでは感じられない自然の魅力を五感を通して感じる事ができた。
- 身近な自然に親子で関心をもつことで、自然物で遊ぶ楽しさを感じることができた。
- 親子でゆっくり自然の中を探索することで、親子で秋を十分に感じる事ができ、より心が豊かになったように感じた。日頃から、親子で身近な自然に触れられるよう心掛けていきたいと思った。



鳥取県国公立幼稚園・こども園長会

## ⑤ 中国ブロック

実施日 令和元年11月6日(水)  
会場 湯梨浜町 東郷湖羽合臨海公園ハワイ夢広場

参加者 [計76名]

- 園児32名 ● 保護者32名 ● 園長5名
- 教諭4名 ● 教育委員会・行政2名 ● その他1名

### はっけん!たいけん! 親子で自然を楽しもう

|      |      |             |             |
|------|------|-------------|-------------|
| 受付   | 開会式  | 親子で触れて感じよう! | 閉会式         |
| 8:40 | 8:50 | 9:00        | 10:40 10:45 |

講師 鳥取短期大学 准教授 近藤 剛

草や葉っぱを使って遊ぼう!

どこに隠れているのかな?



●松葉ずもうを親子でしたり、チームで対戦したりして楽しんだ。



●メヒシバを立てて「はっけよいのこった!」うまく立つ草を探して「トントンずもう」をした。



●ハツタはかくれんぼが上手!じっくり草木を観察し見付けていった。

10月12日(土)に実施の予定だったが、台風のため教員を対象にした「幼児教育について(説明)」のみ、東郷湖羽合臨海公園にて実施した。講師は全国国公立幼稚園・こども園長会新山裕之会長。保護者・園児対象の研修会は11月6日(水)に延期し、東郷湖羽合臨海公園ハワイ夢広場に開催した。講師は上記の通り。

参加者の声

- 自然と遊ぶととても気持ちいいなと思った。外で走ったり、葉っぱを使って遊んだり休みの日に家族で楽しみたい。
- 自然に触れることは、大切だと改めて感じた。これから家での遊びに取り入れてみたいと思う。
- 子どもたちがとても楽しそうな表情を見せていたのですごくよかった。

佐賀県国公立幼稚園会

## ⑦ 九州ブロック

実施日 令和元年11月16日(土) 会場 小城市三日月幼稚園

参加者 [計153名]

- 園児49名 ● 保護者44名 ● 園長8名 ● 教諭36名
- 教育委員会3名 ● 九州各県より13名

### 身近な自然に触れて遊んで、親子でわくわくドキドキ — 遊びの中で育つ学び —

|      |      |              |       |       |         |       |
|------|------|--------------|-------|-------|---------|-------|
| 受付   | 開会式  | 幼児教育について(説明) | 講話    | 休憩    | 親子で実技研修 | 閉会式   |
| 9:00 | 9:20 | 9:50         | 10:20 | 10:30 | 12:00   | 12:20 |

講師 西九州大学教授・三光幼稚園園長 高石 二郎

つくる行為に埋め込まれた学びとは?



●講話では、作る過程を大事にし、自分の素直な感性や感じ方を表現することが重要であるということを学んだ。

石に絵をかこう!



●親子で選んだ石を、下塗りし、絵の具やペンなどを使って、イメージしたもの(顔・動物・恐竜など)を描き、変身させた。

秋の自然物で作ろう!



●秋の自然物(枝・葉っぱ・どんぐりなど)を置いたり組み合わせたりして、イメージするもの(家・街・島など)を作った。



取り組みの様子が佐賀新聞に掲載された。

参加者の声

- 自然と関わる機会が少ない時世、特別事業の実施は意義あることだ。とても素晴らしい研修会であった。
- 幼稚園でいかに自然と触れ合っ遊ぶことを体験させてもらっているのか改めて感じ、感謝の気持ちが湧いた。
- 木や枝などの自然物で創作しているとき、目をキラキラさせて集中して取り組む子どもの姿を見て、普段の遊びの中にも取り入れたいと思った。

愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会

## ⑥ 四国ブロック

実施日 令和元年10月19日(金) 会場 四国中央市 伊予三島運動公園・体育館

参加者 [計105名]

- 園児32名 ● 保護者34名 ● 園長8名 ● 教諭18名
- 未就園児4名 ● 小学生1名 ● 教育委員会・行政4名 ● その他4名

### 親子で一緒に楽しもう! — 身近な自然に触れて遊んで —

|      |      |              |            |       |        |       |
|------|------|--------------|------------|-------|--------|-------|
| 受付   | 開会式  | 幼児教育について(説明) | 秋のネイチャーゲーム | 移動    | 小枝クラフト | 閉会式   |
| 8:45 | 9:00 | 9:15         | 10:15      | 10:25 | 12:00  | 12:15 |

講師 秋のネイチャーゲーム ネイチャーゲームインストラクター 石川 隆志  
小枝クラフト 森林インストラクター「こもちゃんクラフト」 藤田 敏良

秋のネイチャーゲーム

小枝クラフト



●公園で「ハート」「渦巻」「星」など、様々な形の自然物を親子と一緒に探すことを楽しんだ。



●木の枝や木の葉、落ち葉などを使って、親子で相談しながら工夫して汽車を作ることを楽しんだ。

参加者の声

- 生き生きと取り組む子どもの姿を見て、親子で四季を通して自然に触れ合っいこうと改めて思った。
- 自然の中でも楽しく遊べるのが分かった。自然の中で、親子でゆっくり秋の時間を感じながら過ごす時間ができてよかった。
- 自然に触れ合うことの大切さを改めて感じる事ができ、よい一日だった。家庭でも親子で自然の中へ出向いていく時間を取りたいと思う。

## 全国キャンペーン・研修会の成果と課題

研修会では、親子の関わりを楽しみながら、身近な自然に触れたり、自然物を使って遊んだりなどの自然体験活動に取り組んだ。その結果、次のような成果と課題があった。

### 成果

保護者は...

- 親子で秋の自然物に触れ、それを使って遊ぶことができてとても楽しかった。簡単にできる遊びで体を動かしたり、自然に触れ合ったりと、よい体験ができた。
- 走ったり、自然に触れたり、話し合ったり、笑い合ったりと、子どもたちがとても生き生きとした表情で、親もうれしかった。
- 自分の育つ地域に愛着を深めることができて、親子のつながりが深まることも有意義な時間だった。
- 親子で自然物を見付けたり、触れ合っ遊んだりすることができてよかった。自然に興味をもつきっかけになった。

教師は...

- 子どもだけでなく保護者も楽しんでた。大人が自然に興味をもつことで、子どもの生活の中で自然に触れる機会が増えていくと思った。
- 自然は地域によって様々だが、身近な自然物を使っいろいろな遊びを展開していきたいと思った。

### 今後の課題

- 親子で身近な自然に触れて遊ぶ楽しさや、親子の関わり的重要性を繰り返し発信していく必要がある。
- 身近な自然に対する子どもの興味・関心を高めるために、地域の人材や特性を生かした環境を意図的・計画的に取り入れていく必要がある。

### 「幼児教育について(説明)」の資料

(保育教諭養成課程研究会 全国国公立幼稚園・こども園長会 作成)

保育教諭養成課程研究会と全国国公立幼稚園・こども園長会では、幼児教育について分かりやすく説明するための資料を作成した。全国キャンペーン・研修会で、各ブロックの会長等がこの資料の内容をスライドや配布資料を通して説明し、幼児教育に対する理解を深めていただく機会とした。

研修会参加者からは、説明が分かりやすく、普段は見えにくい幼稚園・こども園の教育内容や教師の役割、幼児教育の中での遊びの重要性などを理解することができたという感想をいただいた。それらの感想や意見を参考に、より分かりやすく改善した上で今後、保護者への説明や研修等で広く活用していただきたいと考えている。



行動化を促すためのキャラクター「チャレンジくん」